

令和3年度 ナースセンター運営委員会 活動報告

<p>■委員名</p>	<p>委員長：太田圭子 副委員長：洪愛子 委員：平山ミツヨ・足立育子・山本陽子・菺野朱美・勝間収子・奥村眞司 下山義裕・須田保之・鈴木克司・大迫しのぶ・木谷恵</p>
<p>■開催回数</p>	<p>5回</p>
<p>■活動目標</p>	<p>1. ナースセンター事業の活動を支援し、効果的な広報を行う。 2. 看護職員需要・離職に関して調査を行う。</p>
<p>■活動内容</p>	<p>1. ナースセンター事業の活動を支援し、効果的な広報を行う。 今年度は、ナースセンターの認知度をさらに向上させるため、ナースセンターが取り組んだ新たな広報活動について情報共有し検討した。また、若年層に向けた看護領域への進学を推進するナースセンター事業については、県内の看護専門学校・看護系大学に関して、できるだけ多くの高校生に情報提供するために、ナースセンターにおいて進学説明会参加者に対して、看護領域の教育機関の情報を一覧表にしてまとめたものを配布しているところを、さらに対象者を増やす広報の方法について検討した。</p> <p>2. 令和2年度看護職員の需要・離職調査実施について 県内、病院（看護職Ⅰ分野）、訪問看護ステーション・介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護医療院（看護職Ⅱ分野）を対象に看護職の需要・離職の状況を調査した。調査期間は令和3年4月1日から1か月予定で開始したが、新型コロナウイルス感染症による現場の煩雑さを考慮し期間を2か月延長すると共に、未提出の対象者に回答を促した。回答率は、病院92.5%、看護Ⅱ領域44.6%であった。分析結果については、報告書参照（6月上旬、各施設に調査報告冊子を送付予定）。課題の一つとして抽出されたのは、令和2年度の介護老人保健施設、介護老人福祉施設の1年未満の既卒者退職率が41.4%（非常勤より常勤の退職率が高い）と高いことであり、次年度調査で確認する必要がある。また、今年度の調査内容では、新型コロナウイルス感染症との関連性について確認できなかったため、次年度の調査項目に「新型コロナウイルス感染症に関連する退職」を追加した。</p>
<p>■活動の評価</p>	<p>1. ナースセンター事業の活動状況の情報共有を行い、集計結果を分析し、1つでも改善に活かせるよう課題を明確にしていく必要がある。</p> <p>2. 看護職Ⅱ分野については、施設範囲が広く一緒に分析するには、施設ごとの課題を見極めることが難しい状況である。このことから、これまで看護職Ⅱ分野を1つの調査用紙で調査していたが、次年度より訪問看護ステーション（705施設）と介護老人保健施設・介護老人福祉施設・介護医療院の2領域に分けた調査用紙を作成し分析する必要がある。</p>
<p>■今後の課題</p>	<p>実態調査において、看護Ⅱ分野の回答率が低いことが課題である。回答率を上げるには、対象者が、調査に回答する手間以上のメリットを感じられるように、調査結果が何につながっているか可視化し、調査結果を活かした新たな改善案を提案することが必要と考える。また、看護職Ⅱ分野の離職率が高いことの更なる分析のために追加した質問項目についての評価を行うことを課題とする。</p>